



日本ジュニア管打楽器コンクール 金賞&文部科学大臣賞をW受賞

芽室中学校1年生
豊田 美音さん



日本ジュニア管打楽器コンクールで金賞を受賞し、さらに文部科学大臣賞も獲得した芽室中学校1年生の豊田美音さん。同コンクールの中でも屈指の競争率を誇るフルート部門で輝かしい成績を収めた豊田さんにとってフルートはどんな存在なのか、原動力になっているものは何なのか、お話を伺いました。

尊敬する兄の存在と 負けず嫌いな性格が成長の原動力

今年3月に開催された「第27回日本ジュニア管打楽器コンクール」で、芽室中学校1年生の豊田美音さんがフルート部門で金賞を受賞しました。さらに、当時小学6年生でしたが、他の部門を含む全小学生出場者から一人だけ選ばれる文部科学大臣賞も獲得する快挙となりました。大会は予選として録音審査が行われ、それを通過した参加者が本戦へと進みます。今年のフルート部門では全国から豊田さんを含むわずか3名の本戦出場。フルート部門は特に競争が激しく、予選を通過するだけでも難しいとされています。

豊田さんがフルートに出会ったのは小学4年生の頃。同じ大会で1位を獲得したところのあるお兄さんの影響で始めたといいますが、豊田さんにとってお兄さんは「尊敬しており、越えなければならぬ存在」と語るほど、その存在が大きな原動力となっています。小学5年生の時にも、同じコンクールの本戦に進み、銀賞を受賞。「負けず嫌いで、銀賞がすごく悔しかった」と、この頃から着実に実力を高めていきました。



▲金賞受賞で獲得した光り輝くトロフィー

今回のコンクールでは「緊張で足や口が震えたものの、気持ちよく吹けた」と満足いく演奏を披露。結果は芽室町に戻った後に聞き、文部科学大臣賞の受賞に「うれしさのあまり、近所から苦情が来るのではないか」というくらい家の中で叫んだと話すと、歓喜の瞬間だったそうです。

フルートが人生を豊かにしてくれる

次の目標は、今秋開催される予定の「全日本クラシックコンクール」で入賞すること。昨年度、このコンクールの本戦ではトップの成績を収めました。中学生として参加する今年は「上級生を越えなければならぬ」と、さらに高いレベルで競うことになりました。そのため、これまで自由に楽しんできた練習から、基礎を磨く練習へと意識を変え、さらなる進化を目指しています。輝かしい功績を重ねつつ、次なる挑戦へ。フルートを演奏する時間が「一番楽しい瞬間」と話す豊田さんの今後の活躍から目が離せません。